

GUARDIANWALL V5.0.24 リリースノート

GUARDIANWALL V5.0.23 から GUARDIANWALL V5.0.24 において、以下の修正変更および機能追加がなされました。

1. 機能追加

(1) テープバックアップ機能に事前処理を追加

テープバックアップを実行の際、事前に `mt setblk 0` を実行可能なように機能追加致しました。

CGI のバックアップ処理

< 設定ファイル >

`mss.conf`

< 設定内容 >

`[cgi]`

`Backup_mt_setblk = 0`

`tar` 実行前に `/bin/mt -f <device> setblk 0` を実行する。

ブロックサイズを指定したい場合は、`Backup_mt_setblk = 10240` の様に数値を指定する。

0 を指定した場合には、ブロックサイズは可変長となる。

`setblk` を実行させない場合は、このオプション自体指定しない。

バックアップスクリプト

`backup.pl --setblk`

オプション `--setblk` で `tar` 実行前に `/bin/mt -f <device> setblk 0` を実行する。

ブロックサイズを変えたい場合は、`--setblk=10240` の様に数値を指定する。数値を省略した場合は 0 (可変長)。

`setblk` を実行させない場合は、このオプション自体指定しない。

2. 不具合の修正

(1) テキスト抽出ライブラリの修正

メール添付ファイルのテキスト抽出処理に使用しているライブラリが、[Adobe Acrobat8 の PDFMaker]で作成された PDF ファイルを処理した際に、次の現象が発生する場合があります、テキスト抽出ライブラリを修正致しました。

- 1) CPU が高負荷となる。
- 2) システムテンポラリ領域に大きな一時ファイルが生成される。
- 3) システムが高負荷状態などで、一定時間内にテキスト抽出処理が完了せず抽出処理を中断したときに一時ファイルの削除が行われない。

キーワード検査を行っていない場合は、上記現象は発生致しません。

本修正は、上記現象を回避するものであり、Adobe Acrobat8 の PDFMaker で作成された PDF ファイルのテキスト抽出に対応した (= キーワード検査が可能になった)ということではありません。

(2) 同一日のアーカイブデータをリストアした際のエラー修正

テープバックアップ済みのアーカイブデータと同じ日付のアーカイブデータをテープに追記バックアップした場合、リストア処理でリストを作成後、その日付を選択してリストアを行うと、バックグラウンド処理内の tar でエラーが発生する不具合があり、これを修正致しました。

(3) キーワードパターンマッチ処理

添付ファイル(テキストファイルの場合にはコードが JIS 以外)の検査時に、検査用バッファ(4096 バイト)に検査対象テキストのパラグラフを読込む処理において、SJIS2 バイト目で切れる場合があります、これを修正致しました。

(4) 保留メール送出、削除処理の排他制御

処理完了後メッセージファイル削除前にロックが解除されてしまう不具合があり、これを修正致しました。

(5) 保留メール処理時の通知送信条件修正

以下の設定がなされている場合、保留時の管理者通知を実施しなければ、本来保留メール処理時に「保留後削除通知」、「保留後送出通知」が管理者宛てに送信されるが、これが送信されない不具合があり、修正致しました。

[NoticeMessage]

NotifyAdmin_Cancel=yes または nega

NotifyAdmin_Approve=yes または nega

同様に、以下の設定がなされている場合、保留時の受信者通知を実施しなければ、本来は保留メール処理時に「保留後削除通知」、「保留後送出通知」が受信者宛てに送信されるが、これが送信されない不具合があり、修正致しました。

[NoticeMessage]

NotifyRecipients=TRUE

NotifyRecipients_Cancel=nega

NotifyRecipients_Approve=nega

(6) Content-Transfer-Encoding フィールドの値取得修正

CTE の値を指定文字列のまま使用していたため、空白やコメントが存在すると、本文表示できない不具合があり、これを修正致しました。

(例:CTE の値→7bit の後ろに空白)

(7) キーワード式登録数超過時のエラーメッセージ修正

キーワード条件登録画面で、キーワード式登録数超過エラーが発生したとき、エラー画面「誤り一覧」にエラーメッセージが表示されない不具合があり、これを修正致しました。

「ID 番号: error (too much expression)」

3. 機能改善

(1) テキスト抽出プロセスの一時ファイル対策

テキスト抽出時の一時ファイルの削除を以下のタイミングで行うようにしました。

- 1) テキスト抽出処理終了時
- 2) 1時間ごとに実行される不要ファイル削除処理
- 3) 毎日一回実行されるスケジュール

(2) 保存メールアーカイブ削除方法変更

RAID 等の遅延書込み対策として、予定削除量超過後、削除毎に sleep(デフォルト 15 秒)を実行するよう変更致しました。

(3) mss.conf の識別子長を約 8KB へ拡張

セクションの名前、キーの名前、指定文字列の識別可能最大長を 1023 から 8191 に拡張致しました。

4. セキュリティフィックス

(1) apache のバージョンアップ

管理画面に使用している apache を、1.3.37 にバージョンアップ致しました。

以上